

## 森林資源の循環活用で

### 林業再生先進モデルを

信州F・POWERプロジェクト

(長野県塩尻市)

#### （概要）

塩尻市は、長野県民間企業とともに、東京大学や信州大学との産学官民連携で、林業再生と再生エネルギー利用の循環型社会の形成と地域活性化を図る「信州F・POWERプロジェクト」に取り組んでいる。

#### 森林資源活用の利益を還元

長野県の森林面積は全国3位だが、素材生産量は全国43位と豊富な森林資源を活かし切れていない。

○発電事業は平成30年度稼働を目指し、原木の安定供給を図るため需給会議を毎月開催し、原木価

加工技術で素材生産量を高め、伐材・製材端材を活用した木質バイオマス発電や木質ペレット燃料を製造。

○民間企業の製材・木材

長野県が誇る森林資源を余すことなく活用し、その利益を山側に還元することで林業を復活させることで新たなシステムを構築して、森林の再生と林業

ためプロジェクトが始動した。

・木材産業の振興を図るためにリーダーシップを發揮して積極的に取り組まれた県全体のプロジェクトである。プロジェクトは豊富な資源を背景として大規模な木材加工、そして加工から排出されるチップ、オガコなど



#### （所見）

塩尻市の主たる産業は精密機器製造であるが、長野県は全国3位の森林面積を保有しながら、素材生産や木の消費量は

極めて少なく、大規模な木材加工工場がないことから、森林・林業の地域資源を有効に活用して地域の活性化を図つて、森林・林業・林産業

課題の解決のため、そのうとするもので、リーダーシップを發揮して積極的に取り組まれた県全体のプロジェクトである。プロジェクトは豊富な資源を背景として大規模な木材加工、そして加工から排出されるチップ、オガコなどを発電事業の原料として活用するなど資源の多面的な有効活用が図られる総合的な事業である。

また、熱電併給事業が先行する中での原料確保につながる森林整備の拡充、拡大、そして包括的な施策の展開を、リーダーシップを發揮し主体性をもつて積極的に図つていくことが、本町の安定的な持続性のある発展を図つていくためにも緊要である。

格の固定化を図る。  
○長野県下における素材生産量を平成21年は30万5千㌧であるが、平成32年には75万㌧を予定している。

木材加工工場がないことから、森林・林業の地域資源を有効に活用して地域の活性化を図つて、森林・林業・林産業

課題の解決のため、そのうとするもので、リーダーシップを發揮して積極的に取り組まれた県全体のプロジェクトである。プロジェクトは豊富な資源を背景として大規模な木材加工、そして加工から排出されるチップ、オガコなどを発電事業の原料として活用するなど資源の多面的な有効活用が図られる総合的な事業である。

また、熱電併給事業が先行する中での原料確保につながる森林整備の拡充、拡大、そして包括的な施策の展開を、リーダーシップを發揮し主体性をもつて積極的に図つていくことが、本町の安定的な持続性のある発展を図つていくためにも緊要である。

的な支援を行うことによつて、事業化が加速化されている。

これら先駆的な事例を踏まえ、経営担い手確保などの課題が山積する中で、森林・林業・林産業を基幹とする本町の現状からすると、森林総合産業を創造する総合的な見地で、安定的な原料の確保を担保するとともに木材業界の新たな事業展開による雇用の場の創出と地域経済の活性化を積極的に支援していく必要がある。

事業主体も木材加工の経営ノウハウを有する企業が担い、県、大学など

の全面的なバックアップとともに、塩尻市が主体